

【研究論文】

自尊感情を育てる道徳指導法の研究

—生命尊重の授業展開を通して—

《Original Article》

A Study on the Teaching Method for Effective Moral Education for the
Development of Self-Esteem:
Through the Development of Practice Life-Education in Moral Education.

濱保 和治

Kazuharu HAMAYASU

岡田 大爾

Daiji OKADA

『広島国際大学 教職教室 教育論叢』

“*Hiroshima International University Journal of Educational Research*”

ISSN:1884-9482

第 11 号 抜刷

Off Print of the 11th Edition

広島国際大学 教職教室

Issued by Hiroshima International University Teacher Education Unit

2019 年 12 月

December, 2019

自尊感情を育てる道徳指導法の研究

—生命尊重の授業展開を通して—

廿日市市立 佐伯中学校 濱保 和治

広島国際大学 教職教室 岡田 大爾

要旨：最近、自己肯定感が希薄な生徒が多くなってきている。そのため、自分に自信が持てず、友だちとの人間関係がうまく築けない、学習に意欲がわからないなどの問題が起きている。中教審教育課程部会は、「自己肯定感の低下について、社会との関わりの中で自尊感情とのバランスを考えながら育成することが重要である」と述べている。道徳の学習においては、従来から利用している読み物教材に加え、生徒の日常の学校生活の様子や社会生活の問題を教材化した資料や映像を生徒が自分の生活の様子と比較しながら学習を進めることで、「自分の価値」に気付くことができ、自己肯定感を育成することができる と推測される。本研究では、道徳の徳目に関しては、社会との関わりがあると実感することで自己肯定感が高くなることが予想される「生命尊重に関すること」の内容を取り上げる。生徒相互の関わりを通して、自己肯定感を実感としてとらえることができ、心にひびく道徳の時間の指導法につながると考えられる。

はじめに—問題の所在—

自尊感情が、今様々な教育の領域で注目されている。生徒指導リーフ Leaf18『自尊感情』？それとも『自己有用感』？(2015)によれば、「自尊感情とは、自己に対して肯定的な評価を抱いている状態を指す。心理学用語 Self-Esteem の訳語であり、自己肯定感、自己存在感、自己効力感などの語とほぼ同じ意味合いで用いられている」と示されている。内閣府による『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査』(2013)によると、「日本は諸外国に比べて若者の自分へ満足感(自己肯定感)が低い」ことが示され、最近、自己肯定感が希薄な生徒が多くなっている。このことについて、『中学校学習指導要領解説特別活動編』においても、「自分に自信が持てず、人間関係に不安を感じたりする状況が見られる」ことを指摘している。そのため、学校現場でも自分に自信が持てず、友だちとの人間関係がうまく築けない、学習に意欲がわからないなどの問題が起きている。

また、東京都による『自尊感情や自己肯定感に関する意識調査』(2008)においては、「学年が上がるにつれて自己評価が下がっていき、小学校高学年から中学校1年の低下率が大きく、多くの児童生徒が自分を肯定的に捉えていない」という現状が示されている。

このような中学生の自尊感情の低下に対して、文部科学省中教審教育課程部会(2013)においても、「自己肯定感の低下について、社会との関わりの中で自尊感情とのバランスを考えながら育成することが重要である」と書かれている。

さらに、『中学校学習指導要領道徳編』では、「豊かなかかわりの中で生きるという実感や達成感を深めてこそ健全な自信が育まれる」とし、自分への信頼感や自信などの自尊感情や他者への思いやりなどの道徳性を養うことの必要性を述べている。そこで、道徳の学習においては、従来から利用している読み物教材に加え、生徒の日常の学校生活の様子や社会生活の問題を教材化した資料や映像を生徒が自分の生活の様子と比較しながら学習を進めることで、「自分の価値」に気付くことができ、自己肯定感を育成することができると考えられる。

本研究では、道徳の徳目に関しては、社会との関わりがあると実感することで自己肯定感が高くなることが予想される「生命尊重に関すること」の内容を取り上げる。生徒相互の関わりを通して、自己肯定感を実感としてとらえることができ、心にひびく道徳の時間の指導法につながると考えている。

1. 研究方法

- (1) 自尊感情を定義づけ、その構成要素を明らかにし、道徳の内容項目との関連を研究する。
- (2) 中学校の実態に即した自尊感情の育成方法を研究し、自尊感情を育成する道徳授業の指導法について考察する。
- (3) 「生命尊重に関すること」の内容を取り扱う道徳授業を開発し、その実践をもとにして道徳における自尊感情の育成の在り方を考察する。

2. 研究内容

2.1 「自尊感情」の定義と構成要素

(1) 「自尊感情」の定義

自尊感情は、『教育心理学小辞典』(1991)によれば、「自己についての価値評価に関するものであり、自分自身を価値ある優れた存在とみなす態度、あるいはその態度に伴う感情を意味する。」と記述されている。また、生徒指導リーフ Leaf18『自尊感情』?それとも『自己有用感』?(2015)によれば、自尊感情は心理学用語 Self-Esteem の訳語であり、自己肯定感、自己存在感、自己効力感などの語とはほぼ同じ意味合いで用いられている。自尊感情尺度を作成したローゼンバーグ(1965)は、自尊感情にはかなり異なった2つの側面のあることを指摘した。ひとつは、個人が自分は「とてもよい (very good)」と感じる側面であり、もうひとつは、自分は「これでよい (good enough)」と感じる側面であるという。ローゼンバーグは、自らの自尊感情尺度を作成するに当たり、前者の他人に

対する「自信」や「優越感」を意味するような自尊感情ではなく、後者の「自己受容」を意味するような自尊感情を対象にした(星野、1970)。

こうした自尊感情の二つの側面を、近藤らは基本的自尊感情と社会的自尊感情として表現している(近藤、2010)。基本的自尊感情は、他者との比較や相対的な評価によるものではなく、いわば絶対的で無条件の感情として心の内に存在するものである。つまり、「生きていていい、このままでいい、これ以上でも以下でもない、自分は自分」といったように、ありのままに自分自身を受け入れる感情であり、他者との比較でなく、絶対的、無条件、根源的で永続性のある感情である。それに対して社会的自尊感情は、他者との比較によって相対的なものとして形成される感情であり、「とても良い、できることがある、役に立つ、価値がある、人より優れている」といったように他者の存在を前提としており、他者との比較で、どこまでも際限がなく、相対的、条件付、表面的で一過性の感情であるとしている。つまり、基本的自尊感情は、乳幼児期からの親や親に代わる養育者からの絶対的な愛と、その後の他者との共有体験の繰り返しによって、形成されるものだと考えられる。

社会的自尊感情は、プラスの評価を受けたり、勝負に勝ったりして優越を確認すると、一気に膨らむ。逆に、勝負に負けたりすると、いっぺんで潰れてしまうようなものだと考えられる。

このことについて、生徒指導リーフ Leaf18『自尊感情』?それとも『自己有用感』?(2015)によれば、自尊感情を高めるべく大人が子供を褒める機会を増やしても、必ずしも好ましい結果をもたらすとは言えない。また、大人が褒めることで自信を付けさせることができたとしても、実力以上に過大評価してしまったり、周りの子供からの評価がえられずに元に戻ってしまったり、自他の評価のギャップにストレスを感じるようになっていたりということが起きうるとしている。

これらのことから、自尊感情を高めていくには、基本的自尊感情と社会的自尊感情をバランスよく高めていくことが重要になる。具体的には、児童生徒自らが自分への気づきや他者への気づきを経ながら成長するように促すことが必要だと考える。

以上のことから、本研究では自尊感情を「他者との関わりの中で、自分のよさに気づき、よさを認めることを通して、自分を価値あるものとして感じる気持ちである」と定義する。

(2) 「自尊感情」の構成要素

中学生の自尊感情について、自尊感情測定尺度を用いて分析することで、その特徴が明確になると考えられる。昨年度に筆者らが開発した自尊感情測定尺度(東京都版を一部改変)を用いて、広島県廿日市市立N中学校3年生69名に質問紙調査を行った。表1に自尊感情質問紙を示す。この質問紙調査の結果について因子分析法(バリマックス回転)を用いて分析を行ったところ、「自己評価・自己受容」「自己主張・自己決定」「関係の中での自己」の3つの因子を得た。(表2)各因子は因子負荷量絶対値0.26をしきい値として抽出した。因子名については、『東京都教職員研修センター紀要第10号』の解釈を用いた。

表1 自尊感情測定尺度

中学校 生徒質問紙

実施日() (3) 学年 () 組 () 番 氏名()

番号	内容	あてはまる		あてはまらない	
		よく	やや	あまり	まったく
1	私は今の自分に満足している				
2	人の意見を素直に聞くことができる				
3	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる				
4	私は自分のことが好きである				
5	私は人のために力を尽くしたい				
6	自分の中には様々な可能性がある				
7	私はほかの人の気持ちになることができる				
8	私は自分の判断や行動を信じていることができる				
9	私は自分という存在を大切に思える				
10	私には自分のことを理解してくれる人がいる				
11	私は自分の長所も短所もよく分かっている				
12	私は今の自分は嫌いだ				
13	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことは責任を持って取り組む				
14	私には誰にも負けないもの(こと)がある				
15	自分には良いところがある				
16	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している				
17	私は自分のことは自分で決めたいと思う				
18	私には自分のことを必要としてくれている人がいる				
19	私は自分の個性を大事にしたい				

表2 自尊感情の因子分析表

因子番号 アンケート設問項目	第1因子： 自己評価・ 自己受容	第2因子： 自己主張・ 自己決定	第3因子： 関係の中 での自己	二乗和	寄与率
12.私は今の自分は嫌いだ(逆転項目)	0.781814	0.02468	0.110082	3.324532	17.5%
4.私は自分のことが好きである	-0.73568	0.106504	0.107655		
1.私は今の自分に満足している	-0.69467	0.051479	0.110201		
9.私は自分という存在を大切に思える	-0.61532	0.349546	0.234894		
18.私には自分のことを必要としてくれている人がいる	-0.56644	0.356545	0.317138		
15.自分には良いところがある	-0.58944	0.628763	0.039344	2.614337	13.76%
19.私は自分の個性を大事にしたい	-0.32063	0.62708	0.27452		
11.私は自分の長所も短所もよく分かっている	-0.27636	0.608907	0.114879		
14.私には誰にも負けないもの(こと)がある	0.075848	0.530041	0.16064		
8.私は自分の判断や行動を信じていることができる	-0.15474	0.506892	0.35068		
6.自分の中には様々な可能性がある	-0.23476	0.433979	0.088565	2.401862	12.6%
3.人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる	0.17345	0.269159	0.345463		
17.私は自分のことは自分で決めたいと思う	0.100077	0.267682	0.216531		
16.自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	-0.15771	0.134922	0.606928		
7.私はほかの人の気持ちになることができる	-0.19142	0.403412	0.601445		
10.私には自分のことを理解してくれる人がいる	-0.50977	0.119143	0.590753		
5.私は人のために力を尽くしたい	-0.06851	-0.01021	0.589842		
13.人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことは責任を持って取り組む	-0.0126	0.240913	0.438765		
2.人の意見を素直に聞くことができる	-0.11074	0.259774	0.421642		

表3は質問紙調査の結果を示したものである。

表3 自尊感情の質問紙調査の結果

因子名	アンケート設問項目	評定平均値	各因子の平均値
第1因子 自己評価・自己受容	12.私は今の自分は嫌いだ(逆転項目)	2.443	2.771
	4.私は自分のことが好きである	2.657	
	1.私は今の自分に満足している	2.614	
	9.私は自分という存在を大切に思える	3.086	
	18.私には自分のことを必要としてくれる人がある	3.057	
	15.自分には良いところがある	2.871	
第2因子 自己主張・自己決定	19.私は自分の個性を大事にしたい	3.500	3.139
	11.私は自分の長所も短所もよく分かっている	3.229	
	14.私には誰にも負けないもの(こと)がある	2.857	
	8.私は自分の判断や行動を信じていることができる	3.086	
	6.自分の中には様々な可能性がある	2.971	
	3.人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる	3.071	
	17.私は自分のことは自分で決めたいと思う	3.529	
第3因子 関係の中の自己	16.自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	3.686	3.383
	7.私はほかの人の気持ちになることができる	3.157	
	10.私には自分のことを理解してくれる人がある	3.414	
	5.私は人のために力を尽くしたい	3.329	
	13.人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことは責任を持って取り組む	3.371	
	2.人の意見を素直に聞くことができる	3.343	
全項目の平均値		3.120	

表3において全アンケート項目の平均値が3.120であることから、第1因子「自己評価・自己受容」が低い傾向があることがわかる。

表3をもとに、中学生の自尊感情の特徴を構成要素として分類すると表4のようになる。

表4 自尊感情の構成要素

因子名	アンケート設問項目	構成要素	定義付け	評定平均値
自己評価・自己受容	12.私は今の自分は嫌いだ(逆転項目)	自己受容感	自分のことを肯定的に受容する感情	2.443
	4.私は自分のことが好きである			2.657
	1.私は今の自分に満足している	自己充実感	自分のことに満足する感情	2.614
	9.私は自分という存在を大切に思える	自己存在感	自分のことを大切に評価する感情	3.086
	18.私には自分のことを必要としてくれる人がある	自己承認感	自分は他者から認められていると評価する感情	3.057
	15.自分には良いところがある			
自己主張・自己決定	19.私は自分の個性を大事にしたい	自己成長感	自分は成長している人間だと評価する感情	3.500
	11.私は自分の長所も短所もよく分かっている	自己理解	自分のことを理解する感情	3.229
	14.私には誰にも負けないもの(こと)がある	自己有能感	自分のことを有能だと評価する感情	2.857
	8.私は自分の判断や行動を信じていることができる	自己信頼感	自分のことを信頼する感情	3.086
	6.自分の中には様々な可能性がある	自己効力感	自分はできる人間だと評価する感情	2.971
	3.人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる	自己主張	自分は自己主張できると評価する感情	3.071
	17.私は自分のことは自分で決めたいと思う	自己決定感	自分のことは自分で決めたいとする感情	3.529
関係の中の自己	16.自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	他者からの受容感	自分は他者から受け入れられているとする感情	3.686
	7.私はほかの人の気持ちになることができる	他者理解	自分は他者を理解できるとする感情	3.157
	10.私には自分のことを理解してくれる人がある	他者からの受容感	自分は他者から受け入れられているとする感情	3.414
	5.私は人のために力を尽くしたい	自己有用感	自分は役に立つ人間だと評価する感情	3.329
	13.人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことは責任を持って取り組む	自己責任	自分は責任を果たしているとする感情	3.371
	2.人の意見を素直に聞くことができる	他者受容	自分は他者を受け入れているとする感情	3.343

表4から、中学生の自尊感情は「自己受容感」「自己充実感」「自己肯定感」「自己有能感」「自己効力感」の評定平均値が3.0より低く、他の構成要素よりも大きく低下していると考えられる。

2.2 「自尊感情」を育てる道徳授業

(1) 「自尊感情の育成」と道徳教育の関連性

道徳教育とは、「人間が本来持っているよりよく生きたいという願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動である」と『中学校学習指導要領解説道徳編』に記されている。



図1 マズローの階層欲求説（マズロー『人間性の心理学』（1954））

図1のように、よりよく生きたいという願いはマズローの階層欲求説の中の「自己実現の欲求」にあたり、自尊感情はその下に位置する「承認と自尊の欲求」に該当する。より良く生きたいという「自己実現の欲求」を満たすためには、自尊感情を含む「承認と自尊の欲求」を満たす必要があり、自尊感情の育成と道徳教育は密接に関連すると考えられる。

また、『中学校学習指導要領解説道徳編』においても、「自分への信頼や自信などの自尊感情や他者への思いやりなどの道徳性を養う」としており、自分を肯定的に理解し、自信を持って自己実現を図ろうとする心情を育てることの必要性を示している。

(2) 中学生の道徳性の特徴

中学生の道徳性について、題材の要素を含まない、昨年度に筆者らが開発した表5のような道徳的価値21項目（C16とC17を統合して一つの項目とした）についての自己評価シート（4段階の尺度）を行わせることで、生徒の道徳的価値の理解の状況を把握することができる。

この自己評価シートを用いて学年や学級の生徒の道徳的価値の理解状況の傾向を把握することができ、理解の不十分な道徳的価値について重点的に指導することが可能となる。

表5の自己評価シートを用いて、広島県廿日市市立N中学校3年生69名の道徳的価値の理解の状況について質問紙調査を行った。自己評価の結果について因子分析法（バリマックス回転）を用いて分析を行い、「生命・自然・社会・人間の尊重」「自己肯定感・有用感」「他者への思いやり」「郷

土・世界への関心」の4つの因子を得た。(表6)この4つの因子を視点として生徒の道徳的価値にかかわる意識を分析した。図中の太枠は、因子負荷量絶対値0.40以上を示しており、0.40をしきい値として因子名を解釈した。

表5 道徳的価値の自己評価シート
道徳アンケート(中学校生用)

()年()組()番氏名()

これは、テストではありません。皆さんにお願いして、道徳に関する意識のことを聞いています。自分の事を振り返って、当てはまる番号を解答らんに入力してください。

4. よくできている 3. だいたいできている 2. あまりできていない 1. できていない

項目	質問	(年度初め) 解答	(年度末) 解答
A: 主として自分自身に関する事	1 自分で考え自分で決めたことに対して、責任ある行動をとっている。		
	2 規則正しい生活をしている。		
	3 自分のいいところを知り、自分の個性をもっと伸ばそうとしている。		
	4 自分で目標を立て、その目標に向かって努力している。		
	5 自分自身について考え、新しいことに挑戦しようとしている。		
B: 主として人との関わりに関する事	6 他の人々に対し思いやりの心を持ち、感謝の気持ちを表している。		
	7 時や場に応じて、礼儀正しい言葉遣いや態度をとることができている。		
	8 友だちを信頼し、互いに励まし合い高め合っている。		
C: 主として集団や社会との関わりに関する事	9 自分の考えや意見を相手に伝えようとしている。		
	10 学校や社会のきまりを守っている。		
	11 正義を大切にし、誰に対しても公正、公平に接している。		
	12 人が困っているときは進んで助け、誰かの役に立とうとしている。		
	13 社会の発展のために、将来の生き方について考えている。		
	14 家族の一員としての自覚を持ち、家族のために役割を果たそうとしている。		
	15 集団の一員として、自分がすべきことをしている。		
D: 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事	16 地域や日本の伝統や文化を大切にしている。(地域と日本の文化を統合)		
	17 国際的視野に立って、日本人としての自覚をもち、世界の人々と関わっていききたいと思っている。		
	18 生命の尊さを考え、かけがえのない生命を大切にしている。		
	19 公共物を壊したり、動物を傷つけたりすることはしていない。		
	20 美しいものや自然を大切にしようとしている。		
	21 自分の弱さやずるさを克服しようとしている。		

表6 道徳的価値の自己評価シートの因子分析表

アンケート設問項目	因子番号	第1因子: 生命・自然・ 社会・人間の 尊重	第2因子: 自己肯定 感・有用感	第3因子: 他者への 思いやり	第4因子: 郷土・世界 への関心	二乗和	寄与率
20.美しいものや自然を大切にしようとしている。		0.741248	0.155107	0.076036	0.156687	3.073896	14.6%
18.生命の尊さを考え、かけがえのない生命を大切にしている。		0.726555	0.162238	0.175393	0.264984		
21.自分の弱さやずるさを克服しようとしている。		0.483325	0.403641	0.216023	0.107813		
8.友だちを信頼し、互いに励まし合い高め合っている。		0.477883	0.367381	0.405327	0.089292		
10.学校や社会のきまりを守っている。		0.447571	0.139101	0.275167	0.004581		
2.規則正しい生活をしている。		0.429507	0.465357	0.067193	-0.01949		
15.集団の一員として、自分がすべきことをしている。		0.409164	0.245327	0.525673	0.211385		
7.時や場に応じて、礼儀正しい言葉遣いや態度をとることができている。		0.403201	0.093231	0.441407	0.135892	2.912383	13.9%
4.自分で目標を立て、その目標に向かって努力している。		0.013717	0.733309	0.260824	0.198585		
9.自分の考えや意見を相手に伝えようとしている。		0.29763	0.594645	0.180725	-0.03575		

3.自分のいいところを知り、自分の個性をもっと伸ばそうとしている。	0.187382	0.568939	0.251786	0.242705	2.556737	12.2%
13.社会の発展のために、将来の生き方について考えている。	0.119566	0.54838	0.068857	0.332266		
5.自分自身について考え、新しいことに挑戦しようとしている。	-0.11633	0.484855	0.385588	0.235661		
14.家族の一員としての自覚を持ち、家族のために役割を果たそうとしている。	0.097399	0.187896	0.632385	0.299088		
6.他の人々に対し思いやりの心を持ち、感謝の気持ちを表している。	0.383837	0.259376	0.571906	0.171076		
15.集団の一員として、自分がすべきことをしている。	0.409164	0.245327	0.525673	0.211385		
12.人が困っているときは進んで助け、誰かの役に立とうとしている。	0.228133	0.378864	0.487825	-0.02707		
1.自分で考え自分で決めたことに対して、責任ある行動をとっている。	0.212264	0.383685	0.443112	-0.0612		
11.正義を大切にし、誰に対しても公正、公平に接している。	0.374984	0.240539	0.442485	-0.05974		
17.国際的視野に立って、日本人としての自覚をもち、世界の人々と関わっていききたいと思っている。	0.112821	0.145567	0.078662	0.679187		
16.地域や日本の伝統や文化を大切にしている。	0.387851	0.171516	0.178258	0.536908		

表7は年度初め（6月実施）の結果を示したものである。表7から、全設問の平均値が3.340であることから考えて、「郷土・世界への関心」と「自己肯定感・有用感」が、他の因子と比較して低い傾向にあることが分かった。「自己肯定感・有用感」については、とくに「13.社会の発展のために、将来の生き方について考えている。」（勤労、公共の精神）と「3.自分のいいところを知り、自分の個性をもっと伸ばそうとしている」（個性の伸長）が、それぞれ2.986、3.051と低く、課題があるといえる。

表7 道徳的価値の事前調査の結果

因子名	アンケート設問項目	評定平均値	各因子の平均値
第1因子 会・人間の尊重 生命・自然 社	20.美しいものや自然を大切にしようとしている。	3.775	3.534
	18.生命の尊さを考え、かけがえのない生命を大切にしている。	3.701	
	21.自分の弱さやずるさを克服しようとしている。	3.406	
	8.友だちを信頼し、互いに励まし合い高め合っている。	3.507	
	10.学校や社会のきまりを守っている。	3.623	
	2.規則正しい生活をしている。	3.304	
	15.集団の一員として、自分がすべきことをしている。	3.442	
第2因子 自己肯定感・有用感	7.時や場に応じて、礼儀正しい言葉遣いや態度をとることができている。	3.514	3.126
	4.自分で目標を立て、その目標に向かって努力している。	3.181	
	9.自分の考えや意見を相手に伝えようとしている。	3.254	
	3.自分のいいところを知り、自分の個性をもっと伸ばそうとしている。	3.051	
	13.社会の発展のために、将来の生き方について考えている。	2.986	
第3因子 思いやり 他者への	5.自分自身について考え、新しいことに挑戦しようとしている。	3.159	3.355
	14.家族の一員としての自覚を持ち、家族のために役割を果たそうとしている。	3.275	
	6.他の人々に対し思いやりの心を持ち、感謝の気持ちを表している。	3.435	
	15.集団の一員として、自分がすべきことをしている。	3.442	
	12.人が困っているときは進んで助け、誰かの役に立とうとしている。	3.377	
第4因子 郷土・世界への関心	1.自分で考え自分で決めたことに対して、責任ある行動をとっている。	3.254	3.054
	11.正義を大切にし、誰に対しても公正、公平に接している。	3.348	
	17.国際的視野に立って、日本人としての自覚をもち、世界の人々と関わっていききたいと思っている。	2.848	
	16.地域や日本の伝統や文化を大切にしている。	3.261	
全設問の平均値		3.340	

2.3 「自尊感情」と「生命尊重」の関係性

近藤卓(2010、2007)は、自尊感情は、他者と五感を通じた共有体験で育まれるとしている。それらの共有体験の中でも、自尊感情は「いのちの教育」で高められるとし、「いのちの教育」の目的は、「自分のいのちはかけがえなく大切なもので、自分は無条件に生きていいのだ、と子ども自身が確認できるようにすることだ」と述べている。子ども自身が自分自身を無条件に受け入れるときは、そこに自尊感情が機能している考えることができる。

つまり、自尊感情とは無条件に自分を大切に思え、自分を尊重する感情であり、いのちの教育は自尊感情を育む教育であると換言することができる。

また、永田繁雄(2006)は、道徳の内容項目においては生命尊重そのものが道徳性全体の基盤的な価値であり、すべての内容項目と関連があるとしている。その中でも、「いのち」は内容項目のDの視点「主として生命や自然、崇高なものとのかわりに関すること」が中核となる。生命あるすべてのものをかけがえのないものとして尊重し、大切にすることの内容項目である。

本研究では、道徳の内容項目に関しては、生命尊重を多様な視点から考え、社会との関わりがあると実感することで自己肯定感が高くなることが予想される「生命尊重に関すること」の内容を取り上げる。生徒相互の関わりを通して、自己肯定感を実感としてとらえることができ、心にひびく道徳の時間の指導法につながると考えられる。

3. 道徳の授業実践

3.1 「生命尊重に関すること」の内容を取り扱う道徳授業の実践

(1) 授業実践の内容

- ① 日時 平成30年11月
- ② 学年 第3学年(36名)
- ③ 主題名「生命の尊重」3-(1)
- ④ ねらい「赤ちゃんポスト」の必要・不要について考えることを通して、かけがえのない命を尊重する心を育てる。
- ⑤ 資料名「赤ちゃんポスト」(出典「毎日新聞記事」)
「困難に寄り添って～赤ちゃんポストが見つめた10年」(出典「全国保険医新聞」) 等
- ⑥ 主題設定の理由
○主題観・価値観

本主題は、生命の尊さに気づき自らの命の大切さを深く自覚するとともに、他の生命も尊重する態度を身に付けさせていくことをねらいとしている。

生命はかけがえのない大切なものである。しかし、近年では自然や人間との関わりが希薄さから、生命あるものとの接触が少なくなり、これまでの生活で、「命はかけがえのないもの」「命は大切である」という認識はあるものの、「死ね」や「死にたい」などの言葉を軽々しく言い、生命軽視の軽はずみな行動につながり、社会的問題となることもある。生命あるものは互いに支え合

って生き、生かされていることへの感謝の気持ちを通して、人間の生命は人間関係の中で保たれているという側面があることに気づかせたい。

○生徒観

本学年の生徒は、落ち着いて授業に取り組むことができる生徒がほとんどである。体育大会や委員会活動では積極的に取り組む姿も見られ、だんだんと学年や学級の結束も高まってきている。アンケートで「私は自分の判断や行動を信じることができる」(自己信頼感)に対して肯定的に答えた生徒は77%、「私は自分という存在を大切に思える」(自己存在感)に対して肯定的に答えた生徒は81%であった。また、「自分のことは自分で決めたい」(自己決定感)に対して肯定的に答えた生徒は96%であるが、授業では発言する生徒が少なく、周囲を気にして他人の言動に左右されていることもある。また、自分の都合しか考えず、その行動の結果や周囲への影響までは考えることが出来ず、身勝手な判断で行動してしまうこともまだ見られる。生徒達には、生かされていることに感謝する(自己存在感)とともに、自己以外の生命の尊さに気付かせたい(他者理解)。

○指導観

本授業では、「赤ちゃんポストは必要か」を考えさせることを通して、やむを得ず預けざるを得ない弱者の存在や社会の現状を考えることを通して、命を守る・命を大切にすることはどういうことか、命と責任について考えさせたい。導入では、赤ちゃんの人形に触れることで、赤ちゃんや子どもの命についてについて関心を持たせる。資料を通して、ドイツの赤ちゃんポストの仕組みを説明し、状況を捉えやすいように配慮する。また、アメリカのテキサス州では赤ちゃんを遺棄しても病院か消防署であれば刑事訴追されないことを考えることを通して、社会全体でかけがえない命を守っていることに気づかせたい。展開後半では、赤ちゃんポストのない社会の実現は可能かを考えることを通して、自己の責任ある行動の大切さ(自己責任)や社会の一員としての責任(他者受容)を感じさせたい。

⑦ 準備物

資料、ネームカード、ワークシート、電子黒板、写真

⑧ 指導過程

段階	学習活動 主な発問○、中心発問◎、予想される生徒の反応・	指導形態		指導上の留意点
		T 1	T 2	
導入	1 赤ちゃんの人形に触れる。 ○人形に触れてみて、感じたことを発表しよう。 ・意外と重い。 ・かわいい。 テーマ：命と責任について考えよう。	発問		・出産して、初めて赤ちゃんを抱いた時の思いを語る。 ・一人ひとりの命は、かけがえない命だということを感じさせる。

展 開	<p>2 資料を読んで、「赤ちゃんポスト」の良い点と問題点を考える。</p> <p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの命を救ってあげられる。 ・育てていくのが困難な人を助けられる。 ・虐待が減る。 <p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捨てられた子は本当の親を知らずに生きていくことになる。 ・無責任に出産する人が増える。 ・障害のある子を預ける人がいる。 <p>3 「赤ちゃんポスト」は「必要」か「不要」かを考える。</p>	発問	配付 範読	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんポストの仕組みについて資料で説明する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○赤ちゃんポストは「必要」か「不要」か。</div> <p>【必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの命を守ることができる。 ・虐待や犯罪が減る。 ・子どもには生きる権利がある。 <p>【不要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安易な考えで出産する人が増えるのではないか。 ・無責任な考えの人が増えるのではないか。 ・命を物のように扱っていいのか。 	発問	板書	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えさせる。 ・発表させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○テキサス州では新生児を病院か消防署に遺棄した場合は犯罪にはならないとあるが、どう思うか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・病院や消防署は安全な場所で、命が危険にさらされる可能性が低いから犯罪にならないのだろう。 ・日本ではどうなのか、気になる。 ・犯罪だと思う。赤ちゃんを捨てる無責任な行動をとった人が罪に問われないのはおかしい。 	発問	板書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本でも刑事責任を問われた例はないことを伝える。 ・社会がひとりひとりの命を大切にしようとしていることに気づかせる。
<p>4 命と責任について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">◎どんな社会だったらいいだろうか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で育てるような仕組みがある社会 ・困っている人が SOS を出せる社会 ・人と人がつながり、相談しやすい社会 	発問	板書	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんポストがなくてもよい社会の実現に必要なことを考えさせることで、社会の一員としての責任に触れる。 	

	<p>5 「こうのとりのゆりかご」を設置した慈恵病院の思いを知る。</p> <p>6 再び「赤ちゃんポスト」は必要か、不要か考える。 【必要】 → 【必要】 ・赤ちゃんポストで救われる命がある限り必要だ ・いづれなくなっしてほしいと思うが今はまだ必要だ。 【必要】 → 【不要】 ・赤ちゃんポストを設置するよりも相談窓口を増やしたり人と人のつながりを感じられたりする社会にすることが大切。 【不要】 → 【必要】 ・困っている人には、赤ちゃんポストが唯一の救いになっている。 【不要】 → 【不要】 ・一人ひとりが自らの行動に責任をもつことが大切である。赤ちゃんポストがなければそれに変わる体制を社会が考えるかもしれない。</p>	<p>発問</p>	<p>範読</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネームプレートを張り替えさせる。 ・理由を紹介する。 ・生まれてきた命は、社会全体で守り、育てていく必要があることを伝える。自分も社会に守られ育てられてきたこと、そして命を守り、育てていく存在であることに気づかせる。
<p>終末</p>	<p>7 この時間に考えたことを振り返る。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な視点から出てきた感想を紹介し、全体で共有する。

3.2 「生命尊重に関すること」の内容を取り扱う道徳授業の考察

ここでは、「生命の尊重」に関する道徳授業を行うことで、自尊感情が芽生えたかについて考察する。

(1) 生徒のワークシートの記述

①『赤ちゃんポストは「必要」か「不要」か。』という問いに対する記述（キーワードのみ記述）

○「必要」（28人）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの命が一番大切 ・助けることのできる命は助けたい ・簡単に捨てられる問題はあるが、命の方が大切 ・多くの命を救うことができる ・捨てるのはよくないが、命の方がもっと大切 |
|---|

◎「不要」(6人)(キーワードのみ記述)

- ・簡単に捨てようとする人が増える
- ・責任を持って育てないといけない
- ・赤ちゃんを捨てることを良いとする環境ができてしまう
- ・捨てられた子どもの気持ちを考えなければならない
- ・親が育てなければならない

「必要」と「不要」ともに、「赤ちゃんの命の大切さ」を十分に感じ取り、それぞれの立場で命の大切さを考えていた。2つの立場の意見の交流から、より深く「命の大切さ」を考えることができ、現実の社会の中での問題についても自分の意見を述べる事ができた。授業後半での、赤ちゃんポストのない社会の実現は可能かを考えることでは、自己の責任ある行動の大切さ(自己責任)や社会の一員としての責任(他者受容)に言及した意見が多く出た。

これらのことから、自尊感情のうち「自己主張」「自己責任」「他者受容」については、多くの生徒が芽生えてきたと考えることができる。

(2)「今日の授業を振り返って」に対する記述(原文のまま)

○「必要」

- ・子どもを捨てたくなくても育てることができない人がいることを知り、命を大切にすること、責任を持つことが大切だとわかった。
- ・育てることの責任も大切だけど、何よりも大切なものは命であって、他に命よりも大切なものはないと思った。
- ・命だけを助けるのは、赤ちゃんポストなどを作ればできると思うけど、捨てられた子どもの気持ちを考えることは難しいと思った。(他者理解)
- ・命の大切さを考えることで、自分が大切にされてきたことや、これからの社会について考えることができた。(自己肯定感・自己成長感)
- ・命の大切さを考えて、自分はケガをすることが多かったが親がしっかり育ててくれたからだと思う。これからも命を大切に生きていこうと思う。(自己存在感・自己責任)

「命の大切さ」について、多面的に考える記述が多くあった。「命と責任」の両面から考えることができた記述も多く見られた。多くの生徒が、「命と責任」について多面的な考え方をするようになったと考えられる。

また、数は少ないが「他者理解」の難しさや自分が大切にされてきたことに対する「自己肯定感」・「自己存在感」やこれからの生活に対する「自己成長感」・「自己責任」に言及した記述も見られた。自己に対して前向きで、自分は愛されているという実感を持つ生徒も見られたことから、自尊感情は育ったと考えられる。

◎「不要」

- ・絶対に必要とすれば、命は簡単なものになってしまう。だから、親が限界だという最終手段としての赤ちゃんポストなら本当に必要だと感じた。ただ、産んだからには責任があるということをお忘れなでほしい。
- ・赤ちゃんを育て続けることも簡単ではないし、それから逃れるのも簡単ではない。赤ちゃんが大人になったときの気持ちも考えなければならない。（他者理解）
- ・責任を感じずに子どもを捨てることは考えられないと思った。これからは、責任を持って自分のやるべきことをしていきたいと思う。（自己成長感）

「必要」という意見も尊重しながら、安易に必要としない「不要」の立場で、命と責任について深く考えた記述が多かった。他者の気持ちを考える「他者理解」やこれからの生活に言及した「自己成長感」がうかがわれる記述があった。

(3) 考察

生徒のワークシートの記述から、「自己主張」「自己責任」「他者受容」に関する記述が多くあった。また、授業の振り返りの記述から、「他者理解」「自己肯定感」「自己成長感」に関する記述が多くあった。これらのことから、「生命尊重に関すること」の内容を取り入れた道徳授業は、自尊感情を育てる上で有効であったと考えられる。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・中学生の自尊感情の特徴を分析することで、「自己受容感」「自己充実感」「自己肯定感」「自己有用感」「自己効力感」の低下が課題であることが分かった。
- ・中学生の道徳性について、「郷土・世界への関心」と「自己肯定感・有用感」が相対的に低く、「自己肯定感・有用感」については、とくに「勤労、公共の精神」と「個性の伸長に」が課題であることがわかった。
- ・「生命尊重に関すること」の内容を取り入れた道徳授業は、「自己主張」「自己責任」「他者受容」を深め、「他者理解」「自己肯定感」「自己成長感」を育てることにつながった。自尊感情を育てる上で有効であったと考えられる。

(2) 課題

- ・生徒の記述以外に、自尊感情の高まりを効果的に測定する方法を研究する必要がある。
- ・「生命尊重に関すること」以外に自尊感情を高める単元構成の在り方を開発する必要がある。
- ・授業展開の中で、「生徒にどのように自分の考えを表現させるか」、「生徒の発言をどうつなげて考えを深めさせるか」など指導技術や発問の工夫をする必要がある。

引用文献

- A. H. マズロー(1954) 『人間性の心理学モチベーションとパーソナリティ』 産業能率大学出版部
- 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(2015) 『生徒指導リーフ Leaf18 「自尊感情」？
それとも「自己有用感」？』
- 近藤卓(2007) 『いのちの教育の理論と実践』 金子書房
- 近藤卓(2010) 『自尊感情と共有体験の心理学』 金子書房
- 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 平成 25 年 『幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について(答申)』
- 東京都教職員研修センター(2011) 『自尊感情や自己肯定感に関する研究(第 3 年次)』 東京都教職員研修センター紀要
- 内閣府(2013) 『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査』
- 永田繁雄(2006) 『「じぶん」「いのち」「なかま」を見つめる道徳授業』 教育出版
- 濱保和治・岡田大爾(2018) 『「特別の教科道徳」における道徳性の評価に関する開発的研究—中学校用道徳性自己評価シートの開発とその活用を通して』 広島国際大学教職教室教育叢書第 10 号
- 星野命(1970) 『感情の心理と教育』 児童心理 24
- 三宅和夫・北尾倫彦・小嶋秀夫(1991) 『教育心理学小辞典』 有斐閣
- 文部科学省 平成 29 年 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』 教育出版
- 文部科学省 平成 29 年 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 教育出版